2026年日本平和大会実行委員会ニュースno.6

発行:2026年日本平和大会実行委員会(事務局＝日本平和委員会内) 2026/7/31
Tel 03(3451)6377 Fax 03(3451)6277 Email:info@j-peace.org

要項、チラシ、パンフそろう 第６回実行委開催



7月29日午前、オンラインで第６回実行委員会を開催。９団体と神奈川県実行委から14人が参加しました。冒頭、東森安保破棄中央実行委事務局長から大会をめぐる情勢についての報告（以下に掲載）があり、沖縄県知事選挙勝利や大会成功の意義について討議しました。

続いて、企画のいっそうの具体化や分科会・プレ企画の具体化等について話し合いました。今回の実行委員会で、開催要項とチラシ(右)、学習パンフ(左)がそろい、学習と参加の組織がいよいよ本格化します。全国的には、原水爆禁止世界大会で宣伝等がはじまります。



「開催要項」と「オプショナル・動く分科会および宿泊の申し込書」は、記述等の細部が整い次第発信します。学習パンフは、都道府県実行委用の注文用紙はすでに発信され、初刷り2.5万部のうち約6,500部の注文が届いています。中央団体用の注文用紙は添付の通りです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

話題提供をかねた情勢報告より



■軍事経済化へとかじを切る骨太方針 ７月21日に公表された「骨太方針2026」は、これまでになく軍事色の強いものとなっています。「方針」は「防衛力の変革を実現する」としており、これは年末に改定される「安保３文書」で具体化されます。軍事費が、2026年度のGDP比で２％となれば14兆円、3.5％となれば24兆円になります。

「骨太方針」は、「国が兵器工場・設備を取得し、生産や施設管理を民間に委託」することを提起していますが、これは、戦前戦中にあった、軍隊直轄の国営軍需工場（工廠）の復活です。高市政権は、本気で戦争を遂行できる「継戦能力」を持つ態勢をつくろうとしているのです。「継戦能力」とは、有事のさい自衛隊が長期にわたって戦い続けるための総合的な能力であり、弾薬・燃料・食料などの補給物資の確保、武器・装備品の修理や整備の体制、人員の補充などが含まれます。国が工場設備を保有する方式を導入すれば、採算が取れなくても国がコストを負担でき、戦争に突入したとき「弾薬が足りない」という事態をまねかないようにするためだというのです。

高市首相は、「成長戦略の肝は『危機管理投資』」だとのべ「戦略的に財政出動」を行うと宣言しました。「骨太方針」には、「政府の予算の作り方を根本から改めていく」と書いています。軍事化を中核とする危機管理投資によって潤い肥大化するのは、米日の軍需産業です。高市政権の「強い経済」政策は、日本の財政に過大な負荷をかけ、犠牲となるのは、庶民の暮らしです。

■デニー知事3選で辺野古新基地建設・沖縄の軍事要塞化にノーを

当面するもう一つの問題は 9 月 13 日投開票の沖縄県知事選挙でオール沖縄のデニーさんの３選を勝ち取ることです。デニーさんは辺野古新基地に断固反対するとともに、戦争への道と沖縄の「軍事要塞化」に反対しています。沖縄県の今年度予算は 35 年ぶりに自民党を含む与野党全会一致で決定されました。自民党も県民のくらしを守る政策には反対できないのです。

しかし、自民党などは那覇市の副市長だった人を担いで辺野古新基地を推進し、沖縄の軍事要塞化を進める県政を奪還しようとしています。

相手候補を支持しているのは、自民、維新、国民民主、参政党です。デニー陣営は共産党、立県民主党、社大などで、基礎票では相手側が大きく上回っています。

3 月 16 日の辺野古沖での不屈の転覆による死亡事故があり、これを利用したデニー県政と辺野古新基地反対運動に攻撃が加えられていますが、辺野古新基地をめぐっては昨年秋、米議会の国防総省が米政府監査院に報告した公式文書で、辺野古新基地ができても、固定翼機が使える長い滑走路が使えない限り普天間基地は返還しないと明記したことが明らかとなり、辺野古問題が争点になればなるほどこちらが有利になっています。

沖縄県民の願いを実現するとともに高市政権の暴走を止めるたたかいでもある沖縄県知事選挙への支援強化を訴えます。

プレ企画第１弾に113アクセス
「沖縄県知事選挙 勝利をめざす緊急学習会」

7月30日夜。プレ企画の第１弾として、沖縄県知事選挙についての緊急学習会が開催され、113件のアクセス（最大時）がありました。

講師は瀬長和男沖縄県統一連事務局長。「デニー知事の勝利は、高市政権が進める沖縄（日本）の戦場化を拒否することになり、政権運営に大きなダメージ、全国の人権・民主主義・平和を求める運動には大きな激励になる」とその意義を強調しました。活動交流では、愛知、宮崎、大阪、岡山、宮崎、東京・日野などからチャットも含め、カンパや支援者派遣の取組が報告されました。

次回は

平和大会学習パンフのポイント（仮）

- **日時**　8 月 26 日（水）18 時半～20 時
- **お話**　千坂純日本平和委事務局長
- **提供**　日本平和委員会

■国際シンポ（11/14）のパネリストが決まりました　★独自のチラシを作ります

パネリスト

米国　ニック・ワトキンス／米民主的社会主義者（DSA）国際委員会

韓国　ユ・ミギョン／韓国民主労総組合連盟国際局長

スペイン　マリベル・エルナンデス・サンチェス／婦人国際平和自由連盟スペイン支部コーディネーター

日本　石川康宏/日本平和委員会代表理事

特別報告者　**台湾**　盧倩儀（ルー･チエンイー）/台湾中央研究院欧米研究所研究員

【参加方法】各自直接お申し込みください。下記 URL もしくは右の QR コードからお申込みください。https://forms.gle/FXFXnGMRomSJPERu9

★★ 次回（第７回）実行委員会　8月 21日（金）10 時～12 時（オンラインにて）

・分科会をいっそう具体化して持ち寄りましょう。（講師など、２号チラシに載せます）

・要員の分担についても提案する予定です。